

花さかじいさん

—

5 むかし、むかし、あるところに、おじいさんとおばあさんがあ
りました。おじいさんは山へしば刈りに、おばあさんは、川へ
せんたくに行きました。すると川を、ドンブラコ、ドンブラコ、
大きなモモが流れてきました。

10 おばあさんはその大きなモモを拾って、うちへ持って帰り、う
すの中へ入れておきました。そのうち、おじいさんが、山から
帰ってきました。

「おばあさん、おばあさん、何かないか。おなかがペコペコだ。」

「さっき、川にせんたくに行っていましたら。大きなモモが流
れてきました。それを拾って、うすの中へ入れておきました。

15 それでも食べてください。」

「そうかい、そりゃうまいことをした。一つ、ごちそうになろ
うか。」

おじいさんが、そう言って、うすのところへ行ってみますと、
驚いたも驚いた。

20 「おばあさん、おばあさん、お前が、うすの中へ入れたという
のは、大きなモモだというが、入っているのは、犬ころじゃな

5

しば刈り=Reisig Sammeln

うす=(großer) Mörser

10

15

20

いか。」

おばあさんも、驚いて、飛んで来て、うすの中をのぞきました。
まったくかわいい、白い犬ころです。

「はてな、さっきはたしかに、モモを入れたんだが……」

- 5 二人は、不思議がりました。しかし、かわいい犬でしたから二人はそれから、自分の子のようにして、大事に育てました。
犬は、だんだん大きくなり、やがては、そのあたりにはいないほど、大きな犬になりました。

10

15

20

- 5 不思議がる=sich wundern
大事に=sorgfertig

10

15

20

ある時、その犬がおじいさんに言いました。

「おじいさん、おじいさん、おれに、馬がのっけているような

5 くらをつけなさい。」

5 くら=Sattel

おじいさんは、言いました。

「あんなくら、お前がかわいそうで、つけられないよ。

「いいから、つけなさい。」

おじいさんは、犬の背せ中なかに、くらをつけました。すると、犬が、

10 「おじいさん、くらの上に、かごをのっけなさい。」

10 かご=Korb

「お前がかわいそうで、つけられない。」

「いいから、つけなさい。」

そこで、おじいさんが、かごをつけますと、

「おじいさん、かごのわきに、くわをつけなさい。」

くわ=Hacke

15 「くわと言ったって、お前がかわいそうで、つけられない。」

15

「いいから、つけなさい。」

そこで、くわをつけました。

「では、おじいさん、俺おれのあとから、ついていらっしゃい。」

そう言って、犬は、山の方ほうへ向むかって、歩あるいていきました。山

20 の奥おく深ふかく入いって行いきますと、

20 奥深く=tief

「さあおじいさん、ここを、掘ほってごらんなさい。」

おじいさんは、犬の背中^{せなか}から、くわとかごをおろして、犬の言うとおりに、ザック、ザックと、掘^ほりました。ところが、どうでしょう、中から、大判^{おおばん}、小判^{こばん}など、宝物^{たからもの}がどっさり^で出てきました。

大判=Große Goldmünze 小判=Kleine Goldmünze 宝物=Schatz
どっさり=viel, üppig

5 「おじいさん、おじいさん、宝物をかごの中に入れなさい。そして俺^{おれ}の背中にのっけなさい。」

5

「背中にのっけろといったって、こんなに重^{おも}いものを、かわいそうで、のっけられない。」

のっける=aufladen, beladen

「いいから、のっけなさい。」

10 しかたなく、おじいさんが、かごを犬の背中にのっけてしまうと、また、犬が言いました。

10

「おじいさん、おじいさん、俺の背中に乗^のりなさい。」

「乗れと言っても、お前がかわいそうで。」

「いいから、お乗りなさい。」

15 しかたなしに、おじいさんが、犬の背中にまたがりますと、トントコ、トントコ、犬は山をくだって、家^{かえ}に帰ってきました。おじいさんは、座敷^{ざしき}でかごを開^{ひら}けて、おばあさんと二人で、大判、小判の宝物^とを取り出^だして、ながめていました。

15

またがる=auf etwas steigen

そこへ、隣^{となり}のおばあさんが

座敷=Tatamizimmer

20 「ちょっと、火をかしてください。」

20

とやってきました。そして、座敷^{なら}に並べた、たくさんの宝物を

見て、まったく、びっくりしてしまいました。

「おじいさん、おじいさん、お前さんのところは、お金^{かね}が一つ
もないということで、貧乏^{びんぼう}のように聞いていたのに、このたく
さんのお金や宝^{たから}は、いったい、どこから取^とってきました。」

5 そう、不思議^{ふしぎ}がって、聞きました。おじいさんは、今日あった
いろいろな犬^{いぬ}のことを、始^{はじ}めから終^おわりまで、話^{はな}して聞かせま
した。すると、隣^{となり}のおばあさんは、

「そんないい犬なら、私のところへも、一日、貸^かしてください。」
10 そう言って、むりやり、犬をひっぱって、連^つれて行きました。

5

むりやり=widerwillig

10

15

15

20

20

そのつぎの日のことです。犬は隣のおじいさんに言いました。

「おじいさん、おじいさん、俺に、かごをつけなさい。」

5 すると、おじいさんは欲ばりですから、

「わかってるよ。お前にかごをつけようと思って、借りてきたのだ。」

すると、また犬が、

「かごのわきに、くわをつけなさい。」

10 「わかってる。くわをつけようと思って、とお前を借りてきたのだ。」

おじいさんは言葉を続けて、

「それ、山へ行け。」

15 と、犬を追いたてるようにして、山へ登っていきました。犬は、山へ登ると、いいかげんところで立ち止まって、言いました。

「おじいさん、ここを掘りなさい。」

おじいさんは、大喜びして、サクサクと、くわを振り上げて、土を掘りました。すると、驚いたことに、土の中から出てきたものは、ヘビにカエル、ムカデにゲジゲジ、ありとあらゆる

20 嫌なものばかりです。おじいさんは、とても腹を立てました。

「こいつ、どうして、こんなところを掘らしたんだ。」

5 欲ばりな=geizig

10

追いたてる=vertreiben

15 いいかげんな=angemessen*

振り上げる=ausholen

ムカデ・ゲジゲジ=Tausendfüßler ありとあらゆる=alles

20 mögliche 腹を立てる=böse werden

そう言って、くわを犬に打ち下ろして、殺してしまいました。

そうして、穴を掘って、犬を埋めてしまいました。それでも、

そのそばへ、ヤナギの枝を一本さして、帰ってきました。

5 うちでは欲ばりのおばあさんが、今にかごいっぱい、大判、小判
を持って帰ってくるかと、待っていました。そこへおじいさん
が、ムッとした顔をして、犬も連れずに帰ってきました。

「おじいさん、おじいさん、いったい、どうしたのです。」

と、聞きました。

10 「どうしたもこうしたもあるものか。あの犬の言うところを掘
ったら、出てきたものは、ヘビにカエル、ムカデにゲジゲジ。

腹が立ったから、犬をぶち殺して、埋めておいた。」

打ち下ろす=draufschlagen

ヤナギ=Weide

5

ムッとする=sich ärgern

10

15

15

20

20

四

さて、そのつぎの日のことです。隣となりの正直しょうじきじいさんの家では、
犬が帰ってこないので、隣となりの欲ばりよくじいさんのところへ、聞
5 きに行きました。すると欲ばりじいさんは、

「犬が、ひどいことをしたから、殺ころして、土つちの中うへ埋めてきた。
そばにヤナギの枝えだがさしてある。」そう話はなしました。正直じい
さんは、

「ああ、かわいそうなことをした。」

10 と言って、すぐに、山のほへ登のぼっていきました。ヤナギの枝のさし
てあるところを、さがして行きますと、昨日さした小枝こえだのヤナ
ギがもう、大きな木になっておりました。おじいさんは、かわ
いい犬かたみの形見だと思って、それを切きって、うすつくを作つくりました。
そして、ある日のこと、そのうすでもちをつきました。すると

15 おどろおどろいたことに、もちがいつのまにか、大判おおばん、小判こばん、いろいろ
な宝物たからものになりました。ちょうどその時、また、隣の欲ばりば
あさんが、火ひを借かりにきました。たくさんの宝物を目にします
と、欲ばりばあさんは、

「これは、いったい、どうしたんです。」

20 と、聞きますので、正直じいさんは、ありのままに話はなしました。
それを聞くと、また、欲ばりばあさんは、それでは、わたしの

正直=Ehrlichkeit

5

10

形見=Andenken

もち=Reiskuchen つく=stoßen, stecken, stampfen

15

20 ありのままに=wahrheitsgemäß

ところへ、そのうすを貸^かしてください。」

そう言って、返^{へん}事も聞^きかずに、もう、そのうすを持^もって帰^{かえ}って
いきました。

5 さて、欲^{よく}ばりじいさん、ばあさんは、さっそく、用^{よう}意^いをして、
2人でもちをつきました。ところが、これがまた、大^{たい}変^{へん}です。
もち^{もち}は馬^{うま}ぐそ、牛^{うし}ぐそ、犬^{いぬ}のくそ、まるで、汚^{きた}ないものばか
りになりました。欲^{よく}ばりじいさん、腹^{はら}を立^たてて、おの^{おの}を出^だして
きて、そのうすを、こっばみじんに、たたきわってしまいまし
た。

10

15

20

さっそく=sofort

5

おの=Axt

こっばみじんにたたきわる=in Stücke zerschlagen

10

15

20

五

そのつぎの日のことです。正直じいさんが、欲ばりじいさんのところへ、きました。

5 「あのうすを、かえしてください。」

「あれは、腹が立ったから、いろり^もで燃やしてしまった。」

「なんと、もったいないことを。それではその灰^{はい}でもちょうだいしていきましようか。」

10 「その灰なら、いろりのすみにあるのだがそれだ。持って行きなさい。」

正直じいさんは、その灰をざるに入れて、家へ持って帰りました。その帰り道^{かえみち}のことです。急に風^{きゆう}が吹^{かぜ}いてきて、その灰^かが枯れ木^きの枝^{えだ}にふりかかりました。すると、不思議^{ふしぎ}なことに、ポッポッポッと、枯れ木の枝^{はな}に、サクラの花^さが咲きました。

15 これは不思議だと、驚いたおじいさんは、枯れ木^{のぼ}に登り、ひとつかみの灰を、枯れ木にふりかけました。そうするとそこらじゅう、美しい花ざかりとなりました。

ちょうどそこへ、殿様^{どのさま}の行列^{ぎやうれつ}が、通^{とお}りました。枯れ木に登っているおじいさんを見た殿様は、

20 「これは、日本^{にほん}一の花さかじいじゃ。もう一度^{いちど}、花をさかしてみせろ。」

5

いろり=Feuerstelle

灰=Asche ちょうだいする=bekommen, ergattern

すみ=Rand

10

枯れ木=verdorrtter Baum

15 ひとつかみ=Handvoll

ふりかける=verstreuen そこらじゅう=überall

花ざかり=voll von Blüten

殿様=Landesherr 行列=Zug

20

そこでまた、おじいさんは、ひとつかみの灰を、枯れ木の上に
ふりかけますと、すぐにまた、パッと、美しい花が咲きまし
た。殿様は、

「日本一の花さかじじい。」

5 と言って、またまたほめました。そして、ごほうびに、お金を
たくさんつつんで、おじいさんにあたえました。おじいさんは、
家に帰って、おばあさんにその金を見せ、二人で、それをかぞ
えていました。またそこへ、隣の欲ばりばあさんがやってき
ました。

10 「どうしたんです、そのお金は。」

おじいさんは、さっきの話をしました。すると欲ばりばあさ
ん、急いで家に帰りました。そして、つぎの日、おじいさんに、
いろりからかき集めた灰を持たせて、枯れ木のところへ行って、
「私が、日本一の花さかじじい。」

15 とさげせました。するとまた、ちょうどそこへ、殿様が通り
かかり、

「それでは、枯れ木に花をさかせてみせろ。」

といわれました。おじいさんは、枯れ木に登り、持ってきた灰
を、どっさり、枯れ木の上にふりまきました。ところが、花は、

20 一つも咲かないで、そのかわり、灰が、殿様の家来の目の中に、
入ってしまいました。殿様は、大変おこって、欲ばりじいさん

5 ごほうび=Belohnung

10

かき集める=zusammenscharren

15

20 そのかわり=stattdessen 家来=Lehnsmann/ Diener

を木からひきずりおろして、ひどくしかりました。^{よく}欲ばりじい
さんは、^{なんど}何度も何度も、おわびをして、やっとゆるしてもらい
ました。欲ばりや人のまねをしてはいけません。

5

10

15

20

ひきずりおろす=herunterzerren

5

10

15

20